

「卡车」の語史 ——その起源と展開

田野村忠温

要旨：「卡车」という語は一般に英語の *car* を音訳した「卡」に名詞の「車」を加えたものと説明される。しかし、その通説はあながち誤りだとも言えないものの、重要な疑問の要素を内包し、また、歴史的に見れば「卡车」の語史は実際さらに複雑であった。本小論では、「卡车」とその関連語の過去における使用状況の調査によって確かめることのできた事実とそれに基づいて考え得ることを述べる。

キーワード：「卡车」 語史 音訳 意味変化 外来語

1 はじめに

筆者は、貨物自動車の類を表す中国語の「卡车」、*ka che* という語を知って以来、その語源や意味に関する疑問を抱き続けてきた。

中国語の外来語研究における「卡车」の成り立ちの説明はいたって単純である。すなわち、「卡车」は英語の *car* を音訳した「卡」に名詞の「車」を加えたものだ、そして、それはビールを表す「啤酒」、*pi jiu* が「啤」(*beer*) + 「酒」、カードを表す「卡片」、*ka pian* が「卡」(*card*) + 「片」という構成であるのと同じことだ、というものである。過去から現在に至るまでの外来語に関する論述や外来語辞典のどれを見ても——例えば、羅(1950)、高・劉(1958)、北京師範学院中文系漢語教研組編著(1959)、国語日報出版部編訳組主編(1981)、劉・高・麦・史編(1984)、岑(1990)、王(1990)、楊(2007)、黄編著(2010)、史(2013)、史主編(2019)、黄編著(2020)など——、書かれていることは以上の話を出ない。¹ 中国語に関する概説書や一般の辞書などにおける記述もまた同様である。上述の説明は従来疑われることなく何百回、何千回と繰り返されてきた。

しかし、通説はあながち誤りだとも言えないものの、重要な疑問の要素を内包し、また、歴史的に見れば「卡车」の語史は実際さらに複雑であった。

通説はおそらく、「卡车」は車の一種だから「卡」は英語の *car* の音訳だろうという研究以前の次元の素朴な想像に基づいており、実証による裏付けを欠いている。現に、「卡车」の語の歴史、変遷を確かめた研究は筆者の把握の限りにおいて 1 つとしてない。この小論では、

¹ 例外的に宋主編(2014)は「卡车」を英語の *truck* の音訳兼意識だと説明している。しかし、*truck* と「卡」は音声上の差異があまりに大きく、明白な誤りと言うべきであろう。

「卡车」とその関連語の過去における使用状況の調査に基づいて語史の復元を試みる。これは一般の認識よりもはるかにむずかしい問題であり、残念ながらここで完全な解明を期することはできないが、筆者の確かめることのできた事実とそれに基づいて考え得る範囲のことを以下に述べる。

2 「卡车」に関する通説の問題点

「卡车」という語の成り立ちを「啤酒」や「卡片」のそれと同様に理解することはできない。「卡车」に関する一般的な理解には2つの重要な疑問がある。

「啤酒」が“beer 酒”、すなわち、“beer という名の酒”で、「卡片」が“card 片”、すなわち、“card (長方形の厚紙) の一片”だという説明は問題なく分かる。それぞれの第1字の「啤」「卡」が第2字の「酒」「片」が指すものの範囲を限定する形になっている。しかし、「卡车」が“car 車”だというのはどういうことなのか。もし「卡」が car で、車を表すのであれば、「卡车」は“車車”と言っているのと同じことで、「卡」と「車」を組み合わせる意味がないことになる。これが「卡车」に関する一般的な理解に対する第1の疑問である。

そして、「卡车」は自動車——中国語に言う「汽車」——のすべてを指すわけではなく、もっぱら貨物自動車の類だけを言うのに使われる。もし「卡车」が“car 車”だとすれば自動車の種類には関わらないはずであるが、なぜそのような限定的な意味を表すのか。これが第2の疑問である。

そうした疑問の解決を目指すには、まず過去の資料における用例を調査し、それに基づいて考察を行う必要がある。

3 「卡车」の語史

「卡车」およびその各種の関連語の使用状況を確認して分かるのは、「卡车」という形をした語は歴史的に見ると相異なる3種類の文脈で使われたということである。具体的に言えば、馬車、鉄道、自動車の各文脈である。それらはほぼ時系列を成しているので、ここではそれぞれが発生し、広く使われた時期を第1期、第2期、第3期として記述する。調査で確認できた早い用例に基づいて言えば、それぞれの開始年は1900（光緒26）年、1908（光緒34）年、1923（民国12）年である。各期は実際には重複し、また、各期の開始年はより早い用例の発見によって書き換えが必要になるが、かりにそうした時期区分に従って述べる。

3.1 第1期 馬車の「卡车」（1900～1907 年ごろ）

第1期の「卡车」として確認することのできた用例はすべて新聞に掲載された広告におけるものである。その例を次に2件示す。いずれも上海にあった「洋行」、すなわち、外国商館の競売広告である。以後、用例の引用に際しては必要に応じて句読点の追加を中心とする調整を適宜施す。

礼拝二拍売 准於廿九日十点鐘、下午二点鐘、在虹口外白大橋堍本行拍売外国台、拷、衣厨、書厨²、大小鉄床、脚踏車、卡车、男女皮伙³綢緞衣服（中略）鐘表、洋琴。零星不計此佈。広益洋行啓。（火曜日競売 29日10時および午後2時、虹口外白大橋たもとの本洋行にて、外国製テーブル、ソファー、タンス、本箱、大小の鉄製ベッド、自転車、“卡车”、男女の皮や絹の衣服（中略）時計、洋楽器を競売。その他雑多な商品の記載は省略。広益洋行敬白。）

（外国商館の広告、『申報』1900（光緒26）年11月19日）

礼拝三拍売 准於十三日上午十点鐘、下午二点鐘、在外大端北首百老匯路二号本行拍売書橱、梳粧台、大菜台、椅子（中略）小囡車、卡车。食物、洋酒不計此佈。万順洋行啓。

（水曜日競売 13日午前10時および午後2時、外大橋北詰百老匯路2号の本洋行にて本箱、化粧台、大型食卓、椅子（中略）ベビーカー⁴、“卡车”を競売。食品、洋酒の記載は省略。万順洋行敬白。）

（外国商館の広告、『申報』1901（光緒27）年4月30日）

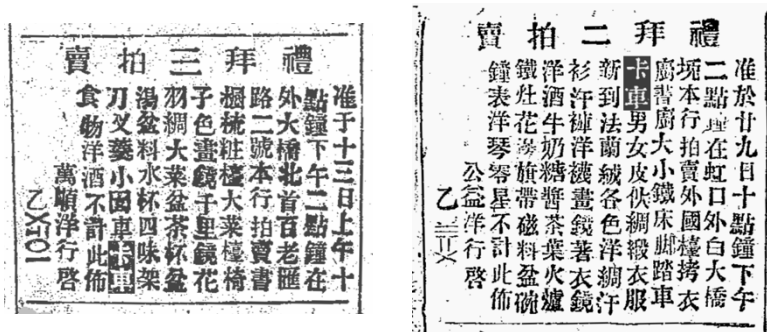


図1 新聞広告における「卡车」

これらの広告に含まれる「卡车」は貨物自動車でもなければそれ以外の種類の自動車でもない。中国に自動車は初めて輸入されたのは1901年のことであり、Leinz という名のハンガリー人が自動車2台を輸入し、それが上海の租界で使われたと言う（中国公路交通史編審委員会(1990)）。1900年前後の中国はまだ自動車の広告、販売が行われる状況にはなかった。

² 2 か所にある「厨」は正しくは「橱」である。また、原文で「外国台拷衣厨」と書かれたくだりの構成が一見はっきりしないが、「拷」を英語の couch（長椅子、ソファー）の音訳と見て、「外国台、拷、衣厨」と解釈した。ほかの広告中に見られる「大拷単拷」というくだりは「大拷、単拷」という構成で“複数人用の大型ソファー、1人用の小型ソファー”を表し、また、「真雲石紅木拷床」における「拷床」という2字連鎖は“ソファーベッド”ないし“ソファーとベッド”を表すと推定されるからである。

³ 「皮伙」はおそらく「皮貨」であろう。

⁴ 原文の「小囡車」——「小囡」は辞書によれば子どもを表す方言——は、乳幼児を乗せるベビーカー、さもなくば、子どもが乗る何らかの種類の車であろう。ほかの広告に「小囡車」と「小囡脚踏車」（子ども用自転車）を併記したものがあるので、子ども用の自転車ではないと考えられる。

広告中の「卡车」は外国から輸入された馬車を指していると考えられる。そして、その「卡」は car ではなく、馬車を表す cart の音訳だと考えられる。

cart には二輪のものと四輪のものがあつた。英語で四輪の cart は多く wag(g)on と呼ばれたが、cart に修飾の句を加えた four-wheel(ed) cart (四輪 cart) という表現も使われた。19 世紀の英国の書籍に見られる貨物運送用および旅客運送用の cart の挿し絵の例を図 2、図 3 に示す。

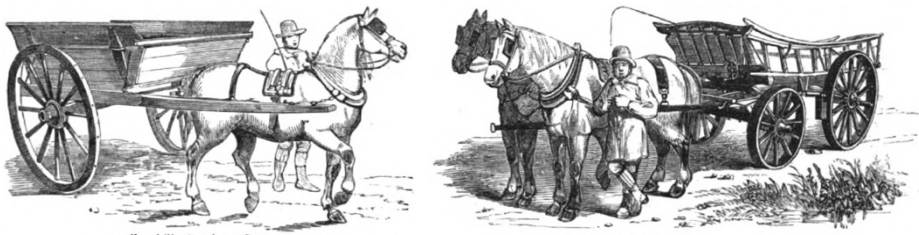


図 2 貨物運送用の cart⁵



図 3 旅客運送用の cart⁶

このように「卡车」が本来馬車を表す語で、その由来が“car+車”ではなく“cart+車”であったことは、外国商館の同様の広告中に現れる類似した語形の関連語の存在によっても裏付けられる。それは、「道卡」という語と、それに「車」を加えた「道卡车」という語である。その例を 1 件ずつ示す。「道卡」は「卡车」より何年も早い時期から見られる。

礼拝一拍賣 啓者、本行代客拍賣。准于十二日五点钟、在本行拍賣轎車、道卡、各色馬匹、另物等。貴客如欲意者屆時早臨面拍可也。竜飛洋行啓。(月曜日競売 本洋行では代理の競売を行う。12 日 5 時本洋行にて箱馬車⁷、“道卡”、各色の馬その他の競売を開催。ご関心の向きは当日早めに來行、入札されたし。竜飛洋行敬白。)

⁵ 挿し絵はともに *Great Exhibition of the Works of Industry of All Nations 1851: Official Descriptive and Illustrated Catalogue* (1851 年) による。

⁶ Martin Doyle *A Cyclopædia of Practical Husbandry and Rural Affairs in General* (1839 年) による。

⁷ 原文中の「轎車」の「轎」は人を乗せる輿^{こし}。

（外国商館の広告、『申報』1885（光緒11）年10月19日）

拍売車馬牛 啓者、於十八日五点钟、在本行拍売轎車、四輪車、道卡車、又車馬、騎馬數十匹、又外国奶牛一頭。另物不計。（中略）竜飛洋行啓。（車牛馬競売 18日5時本洋行にて箱馬車、四輪車（四輪貨物馬車?）、“道卡車”、車馬、騎馬数十頭、外国乳牛 1 頭などの競売を開催。

（中略）竜飛洋行敬白。）

（外国商館の広告、『申報』1889（光緒15）年5月17日）

この「道卡」は筆者の推定によれば dog cart の音訳である——上海語における「道」の発音は[do]である——。dog cart は本来座席の下に猟犬を載せるための箱型のスペースを備えた軽量の狩猟用 cart であったが、その後狩猟での使用を目的としないスポーティーな一般乗用 cart にもその名称が適用されるようになった（Stratton(1878)、Berkebile(1978)）。⁸ dog cart の挿し絵の例を図4、図5に示す。前者が原型の dog cart である。後者は *Across England in a Dog-Cart* と題された旅行記の本文開始部に掲げられた著者とその妻の旅の様子である。いずれにおいても馬車の後部に後ろを向いて座っているのは従者である。



図4 狩猟用の dog cart⁹



図5 一般乗用の dog cart¹⁰

⁸ dog cart という名称はほかに犬に引かせる小さな車を表すのにも使われた。図3で旅客馬車の手前に描かれているのがその例だと思われる。

⁹ Samuel Sidney *The Book of the Horse*, New Edition (1893年) による。

¹⁰ James John Hissey *Across England in a Dog-Cart, From London to St. Davids and Back* (1891年) に

「道卡车」が“dog cart 車”だとすれば、それとの関係からしても、「卡车」の由来はやはり“car 車”ではなく“cart 車”であると考えるのが自然である。

なお、「道卡」の用例として上では文面が簡潔で分かりやすい 1885 年の広告を挙げたが、「道卡」は 1882 年の 2 月から 3 月にかけての『申報』に繰り返し掲載された「飛輪馬車公司」の広告にも見られる。¹¹

以後の自動車の「卡车」に関する議論における必要上、この第 1 期における自動車の名称についてここで触れておくと、中国では自動車はまだ普及していないものの、『申報』では西洋に関わる 2 種類の記事に自動車を表す「汽車」という名称が出て来る。その 1 つは、欧州で行われた自動車レースの報道である。

華曆四月二十九日英京倫敦來電云、近有法人与英人及他国人合擬賭賽。汽車由法京巴黎斯至日斯巴尼亞京城馬得利脫。(4 月 29 日ロンドン電によれば、最近仏英両国人らが賭けレースを計画した。自動車はパリを出発し、マドリードに至る。)

(「賽車肇事」、『申報』1903 (光緒 29) 年 5 月 27 日)

もう 1 つは、自動車輸入開始後に起きるようになった自動車事故の報道である——上の自動車レースの記事でも後続する部分に事故の情報が含まれている——。おそらくそのすべてが西洋人の運転する自動車にはねられて中国人が死傷したという内容である。一例を引用すれば次の通りである。

昨日下午時、有汽車一輛行經南京路撞倒小工模樣之華人一名、年約三旬左右。(昨日午後、南京路を走行する 1 台の自動車が 30 歳前後の労働者風中国人 1 名をはねた。)

(「汽車傷人」、『申報』1906 (光緒 32) 年 5 月 23 日)

3.2 第 2 期 鉄道の「卡车」(1908~1922 年ごろ)

第 2 期には「卡车」の語は鉄道の文脈で使われるようになった。早い用例には次のようなものがある。冒頭にある「火車」は日本語で言う汽車、列車に相当する。

数日来火車尽出。客多車少、齐用卡车、即連貨卡、露天卡放齐、亦不足用。(中略) 車頭六具、頭等、二等八架、客卡、貨卡、連露天卡共成五十四乘、用齐尚不敷近日之用也。(数日来汽車はフル稼働である。乗客が多く車両が少ないので、“卡车”をすべて使っても、すなわち、貨車と無蓋貨車も放出してもまだ足りない。機関車 6 両、一等車と二等車 8 両、客車、貨車、無蓋貨車計 54

よる。

¹¹ それらの広告では「道卡」は「恒生蜜道卡」という形で書かれている。「恒生蜜」はおそらく英語の handsome を音訳したものであろう。その後の他店の広告には「亨生美」という形で現れ、「道卡」のほか「車」「馬車」「轎車」(箱馬車)「東洋車」(人力車)などの形容に使われている。

両で、それをすべて使っても目下の用には足りない。)

(「寧海通信」、『警東新報』¹²1908 (光緒 34) 年 10 月 17 号)

列車の構成要素のうち牽引車両が「車頭」(機関車)、被牽引車両が「客卡」(客車)「貨卡」(貨車)「露天卡」(無蓋貨車)と表現されている。そして、「卡车」の語が被牽引車両の総称として使われていると見られる。

「客卡」「貨卡」「露天卡」はおそらく *passenger car*、*freight car*、*open freight car* のような英語表現に基づいており、その「卡」は *car* の音訳であると推定される。とすれば、「卡车」の「卡」も *passenger car*、*freight car* などの名称の一部としての *car* の音訳だと考えてよいであろう。¹³

次の用例は第 3 期に入ってからのものであるが、ここでは「卡车」がもっぱら鉄道の客車を指して使われている。

十三日英京電。匈牙利国佈達佩斯埠客車、昨十二晚開往某埠、駛離佈達斯十英里許、忽然遇炸。卡車九輛、墮下一百尺深山中、斃二十五人。(13 日ロンドン電。ハンガリー・ブダペストの旅客列車¹⁴が昨夜 12 時に某市に向けて出発後十数キロメートルのところで突然爆破に遭い、“卡车”9 輛は 30 メートル下の山中に転落し、25 人が死亡した。)

(「匈国火車中途被炸」、『東華報』¹⁵1931 年 9 月 19 日)

第 1 期と第 2 期の「卡车」のあいだの語源上の関係は明らかではない。両者は貨車や客車を動力源によって牽引するイメージにおいては共通しているが、「卡」がおそらくそれぞれ *cart* と *car* の音訳であるという点で異なっている。表面的には同一の語であり、両者間に継承の要素があった可能性はあるが、相互に独立した 2 語と考えるのがおそらく穏当であろう。

ちなみに、「寧海通信」の記事では、後続するくだりに次のように書かれている。

前日買卡時、執事者怨買弁過多。今日尚嫌其少。現買得数卡在港未到（以前は“卡”を買うとき購入担当者は買弁が多いことを恨んだが、今もなおそのことを嫌う人は少ない。目下購入することのできた数両の“卡”は港にあり未着である。）

(同上)

自動車の文脈では「卡」が単独で車を表すのに使われた例は調査の限りにおいて見られな

¹² 『警東新報』はオーストラリアで出版された中国語新聞——英語名は *The Chinese Times*——である。『申報』には鉄道の「卡车」の早期の用例が少ないので、外地の新聞の用例を使う。外地の新聞ではあるが、標題が「寧海通信」であるから内地で書かれた記事だと考えられる。

¹³ ただし、まれには *freight cart*、*open freight cart* という表現も見られるので、目下着目している「卡」の原語が必ず *car* であって *cart* ではあり得ないと言えるわけではない。

¹⁴ 原文では「客車」であるが、記事標題および文脈から考えて旅客用の列車のことであろう。

¹⁵ 『東華報』はオーストラリアで出版された中国語新聞——英語名 *Tung Wah Times*——である。

いので、とすれば鉄道に関わる独自の用法であることになる。

また、鉄道の文脈においては次のように「車卡」という語も使われている。使用頻度は「卡車」よりもむしろ高い。「車卡」は「卡車」と同義ではないかと想像されるが、確かなことは分らない。

廿七号電。英人布靈甯（本洲人）在英京加令咸地方築一單軌鐵路。業已竣工試験一次。共歴二十二英里、車卡載有六十人、行車時甚安定。再俟十八個月、即竣造載客之車卡云。
 （27日電。英国出身のオーストラリア人 Brennan はロンドンの Cunnigham にモノレールを建設した。工事は終わり試運転も一度行った。全長 35 キロメートル、「車卡」には 60 人乗り、走行は非常に安定していた。18 か月後には旅客用「車卡」の製造を終えると言う。）

（「英国有單軌鐵路出現」、『警東新報』1910 年 2 月 26 日）

この「車卡」は名詞「車」に音訳の「卡」を付加した形になっている。「啤酒」「卡片」「卡車」のような音訳に名詞を付加した型の外来語とは要素順が逆である。

第 2 期には、自動車は「汽車」に加えてしばしば英語の motorcar に基づく諸名称によっても呼ばれるようになった。すなわち、その音訳である「摩托卡」、それに「車」を加えた「摩托卡車」、そこから「卡」を省いたとも motorcar の car の部分を翻訳したとも解し得る「摩托車」などの名称である。motor の音訳には、「摩托」に加えて、その「摩」を「磨」「麻」「馬」「毛」など、「托」を「託」「駝」「達」「打」などに置き換えてできる多様な発音、表記があったが、以後本文においてはそれらを「摩托」で代表させる。「摩托卡」と「摩托卡車」における「卡」は無論確実に car の音訳である。¹⁶

「摩托卡」「摩托卡車」「摩托車」の用例を 1 件ずつ示せば次の通りである。

現在吾們一同坐了摩託卡去好麼。（今から皆いっしょに“摩托卡”に乗って行こうか。）

（周瘦鵬訳「懺情小説 覚悟」、『礼拝六』第 22 期、1914（民国 3）年）

電灯公司小工周生宝前日下午乘該公司之運料馬達卡車、經過楊樹浦忽從車上失速墜下、被車輪碾傷頭部左臂。（電灯会社従業員の周生宝は一昨日午後同社の材料運搬用の“馬達卡車”に乗り、楊樹浦を過ぎたところで突然転落し、車輪に轢かれて頭部と左臂を負傷した。）

（「運料車碾斃小工」、『申報』1914（民国 3）年 10 月 22 日）

摩託車不用馬、不用汽、不用電線、不用軌道。日本謂之自働車、上海則謂之汽車。實則摩託利用油之冷熱漲縮、与汽機不同。（“摩托車”は馬も蒸気機関も電線も軌道も使わない。日

¹⁶ Ford Motor 社の車は「福特卡車」などと書かれたが、これも「福特+卡車」ではなく「福特卡+車」である。即ち、Ford Car の音訳である「福特卡」に「車」を加えたものである。Packard 社の車を表す「泊卡車」は「泊卡+車」であり、「泊卡」が Packard の音訳である。

本では「自働車」¹⁷、上海では「汽車」と呼ばれる。摩託（エンジン）は燃料油の圧縮膨張を利用するもので、蒸気機関とは異なる。）

（吳朏庵「欧洲通信」、『東方雜誌』第5年第7期、1908（光緒34）年）

『申報』で確かめ得る限りでは、3語が使われ始めた時期はいずれも1910年過ぎで、特に違いはない。

ほかに「摩托客車」「摩托貨車」「載摩托運貨車」などの形の表現も使われた。

3.3 第3期 自動車の「卡车」（1923年ごろ～）

第3期においては、「卡车」が自動車の名称として第1期以来の「汽車」と第2期以来の「摩托卡」「摩托卡车」「摩托车」などに加えて使われるようになる。¹⁸

自動車を表すと言っても、「汽車」や「摩托卡」などのように自動車全般を表すわけではなく、第3期の「卡车」の表す車種は当初から比較的大型のものにはほぼ限られているという印象がある。そして、もっぱら貨物自動車とそれに類するものを表す現代の「卡车」とは異なり、相対的に頻度は低いものの、旅客自動車を表すのにも使われた。例えば、次のような用例がある。

刻以營業發展、原有之福特車、及乘坐四人之專車、不敷開駛。特往滬上新購轎式卡车一輛、於日前運揚、以供乘客之需。（今や營業の發展により、当初からあったフォード車および4人乗りの専用車では足りなくなった。上海に赴いて新たに乗用箱型の“卡车”1両を購入して先日運用を開始し、乗客の需要に供した。）

（「江北汽車消息一束」、『申報』1923（民国12）年12月29日）

次の報道も、「卡车」に旅客自動車を含めて解釈する人が多かったことを示している。ここでの主題である滬太公路は滬太長途汽車会社が1921年に建設した滬上^{こたい}、すなわち、上海から江蘇省太倉県に至る長距離自動車道である。訳文は「卡车」の使われている後半部のみとする。

¹⁷ この「自働車」は誤記ではない。18世紀末から19世紀前半にかけての日本語においては「自働車」が「自動車」とともに広く使われていた。

¹⁸ 第1期以来の名称のうち、「汽車」は自動車を表す名称として最終的に定着したが、「摩托卡」「摩托卡车」「摩托车」はその後20世紀半ばには四輪自動車の名称としては廃れ、「摩托车」が二輪自動車（オートバイ）の類の名称として定着した。変化の過程は確認できていないが、おそらくそれは本来の「脚踏摩托车」「摩托脚踏車」などの名称を基礎としており——「脚踏車」は自転車の旧称、二輪自動車の名称にはほかにも「脚踏摩托卡」「脚踏汽車」「機器脚踏車」などがあった——、四輪車を表すには「汽車」の語が一般化して「摩托车」の類が使われなくなったことから「脚踏」を省くことが可能になり、それによって成立したのではないかと想像される。

霪雨経旬、河水膨漲、該公司路面、雖預先加鋪煤屑、奈雨水太多、故路面受有凹痕。現為預防路壞起見、於前日（十二日）宣告暫時停駛。如今日天氣放晴、路泥堅結、即可照常行駛也。該公司前因保護路面起見、曾宣言阻止外來卡車入路線之事、致有引起一般人之誤解、以卡車作乘客之車輛、故客車駛入該公司路線者日見減少。茲由該公司重行聲明、此項卡車係專指運貨笨重之車而言、於客車則並不阻止云。（滬太長途汽車公司是（長雨で傷んだ）路面を保護するために外來の“卡車”の通行を禁じたところ、一般の人々が“卡車”を乘客運送の車両のことと誤解し、旅客自動車の通行が日ごとに減少した。そこで該公司はこの“卡車”はもっぱら重量のある貨物自動車を指しており、旅客自動車の通行は差し支えないとあらためて発表した。）

（「滬太公司近況」、『申報』1923（民国 12）年 7 月 14 日）

長雨で傷んだ路面の保護のために自動車道での「卡車」の通行禁止を宣言したところ、禁止の対象は貨物自動車だけであつたにもかかわらず、人々が旅客自動車も該当すると受け止めたと言う。“一般人の誤解を招いた”という説明は、「卡車」の意味の貨物自動車への限定が自動車あるいは貨物運送に関わる専門業界で始まったという可能性を示唆している。

次の新聞広告では、自動車の販売業者が「汽車」（自動車）とは区別して「卡車」の語を使い、括弧書きの注でそれが貨物自動車だという説明を加えている。

陳宝書、陳旭初啓事 敬啓者、鄙人等茲受亨茂洋行聘任為該行華總經理之職、專辦歐美名廠各種最高等之汽車、卡車（即運貨車）、長途汽車 如 Buick, la Salle, Cadillac, Oldsmobile, G. M. C. Trucks,等車久已馳名中外。（後略）（陳宝書、陳旭初公示 私共兩名は亨茂洋行より同社總經理職の任を受け、欧米各社の各種最高級の自動車、“卡車”（すなわち、貨物自動車）、長距離旅客自動車を販売します。Buick, la Salle, Cadillac, Oldsmobile, G. M. C. Trucks（すべて米国の自動車メーカー）などの自動車は長年国内外で名を馳せています。）

（代理商館の広告、『申報』1928（民国 17）年 12 月 8 日）

ここでは一般の自動車、貨物自動車、旅客自動車が「汽車」「卡車」「長途汽車」によって表し分けられ、現代の用語法に近付いている。

次のような例からは、「卡車」が少なくとも 20 世紀の中葉まで旅客自動車を表すのにも使われていたことが知られる。

昨日午後約一時許、光華運輸公司載客卡車一二六三七号、馳經陸家浜路大興街口、忽有乘客由車上跳下。時卡車正向前疾駛、該乘客跳下後、倒地昏厥、頭部出血不止。（昨日午後 1 時ごろ、光華運輸公司の旅客運送用“卡車”12637 号が陸家浜路を走行中、大興街口を過ぎたところで突然乘客が車から飛び降りた。そのとき“卡車”は高速で走行しており、当の乘客は飛び降りた後、地面に倒れて意識を失い、頭部から出血して止まらなかった。）

（「乘客跳車跌斃」、『申報』1946 年 10 月 11 日）

その後「卡车」は狭義化して旅客自動車を表す用法が廃れ、「轎式卡车」「載客卡车」などの表現も使われなくなったわけであるが、その原因は不詳である。可能性としては、旅客自動車、バスを表す「長途汽車」「公共汽車」などの語が普及した、あるいは、旧時には図 6 に見るようにエンジン部と客車部が外形上独立していた旅客自動車の形状が一体型の直方体に変ったために第 1 期以来の「卡车」が持っていた牽引動力部と被牽引部の組合せというイメージに合わなくなった、といった事実が関わっていることが考えられるが、いずれも結果論的な想像にとどまる。¹⁹

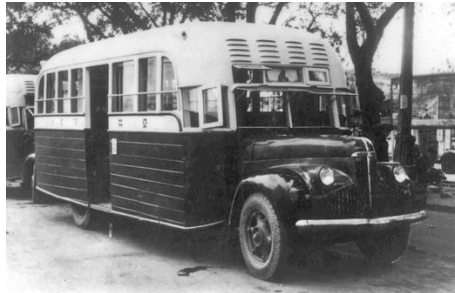


図 6 旧時の旅客自動車²⁰

いずれにせよ、「卡车」の用法の変化の背景には、「卡」が音訳字に過ぎないという事情があると考えられる。すなわち、「運貨」「載客」などのように意味を明確に表す表現と異なり、「卡」は意味が不透明であるために解釈の自由度が高く、用法が相対的に変化しやすいということである。『中华人民共和国公共安全行业标准 GA 802-2014 机动车类型 术语和定义』（2014 年）を確かめてみても、自動車の類型は「汽車」「載客汽車」「載貨汽車」「掛車」（トレーラー）などの語によって記述されており、「卡车」の語はまったく使われていない。その

¹⁹ 「卡车」の狭義化の原因に関する実質的な議論は従来ないが、銭(2013)に想像が断定的に述べられている。銭は狭義化が「汽車」の語との関係によって生じたと言う。

上海人有了汽车的名词后，慢慢将“卡车”这个名词转义为称装载货物的大汽车了。（上海では「汽車」という名詞が使われるようになって以後、徐々に「卡车」は貨物を積む大きな自動車を表すようになった。）

この想像は「汽車」の出現によってなぜ「卡车」が貨物自動車の類だけを表すようになるのかということをもまったく説明していないが、それ以前にそもそも自動車を表す表現の歴史の事実と合致していない。すなわち、銭はあたかも「卡车」が自動車全般を表し続けていたところから「汽車」が普及し、それによって「卡车」が狭義化したかのように言うが、すでに本文で見た通り、実際には自動車の名称は「汽車」に始まり、そして、「摩托卡」などの語が（自動車を表す）「卡车」に先行していた。そして、「卡车」は当初から自動車全般ではなく貨物自動車と旅客自動車だけを指して使われ、それがその後さらに狭義化して貨物自動車だけを表すようになった。

²⁰ 写真は『羊城晚报』2021 年 6 月 7 日号に掲載された記事「近百年历史，公共汽车在广州记忆中穿行」による。

こともまた、「卡车」の意味の不透明さに関係しているのではないかと思われる。自動車を表す「卡车」は当初から現在に至るまで指示範囲の明確でない一般通用語だと言えるかも知れない。

しかし、それにしても第3期の「卡车」の語はどのようにして生まれたのか。第1期や第2期の「卡车」を継承したものなのか、それとも、それらとは関わりなく作られたものなのか。この難題の検討は次節の課題とし、本節では最後に、解釈の自明でない「卡车」の用例2件について考える。

その1つは、第3期初頭の1923年における次の例である。

今日人日也。風和日麗、士女游興正濃。宣武一門、車馬往来、擁擠至不堪言状。卡车之事、時時而有。一二小警吏、蹀躞招呼、汗流气喘、其状可笑、亦至可憐。(本日は人日(旧正月7日の祝日)である。天気もよく、街は多くの人出でにぎわった。宣武門界限は車馬が行き交い、名状しがたい混雑ぶりであった。「卡车」のこともときどきあり、一二の小警官が慌ただしく走り回り交通整理を行っている様子はこっけいでもあり、気の毒でもあった。)

(「爆竹声中之都門景象」、『申報』1923(民国12)年2月25日)

春節時の北京のにぎわう情景の報道の一部として、車馬の混雑の様子が描かれている。その混雑の中で「卡车之事」がときどき生じたと言う。もしこの「卡车」が自動車を指しているとするれば、文脈上それを貨物自動車や旅客自動車に限定して解釈すべき理由はないので、小型の乗用自動車を含む自動車全般を表していることになる。しかし、そのような意味で使われた「卡车」の例はほかに見出せない。筆者には判断がむずかしいが、「卡车之事、時時而有。」の「事」は“事態、出来事”を表し、「卡车」は目下考察している自動車の名称ではなく、「卡」が“物がはさまって動けない状態になる”のような意味を表す動詞(qia)で、混雑のために馬車の通行が滞った状態を表しているとする解釈に傾く。

第2の例は、時代は下るが、許晚成『東北真面目』(1948(民国37)年)に出て来る、ソ連軍兵士の乗った車両を指す「大卡车」と「脚踏卡车」の名称である。「大卡车」は大きな貨物自動車ということであろうが、「脚踏卡车」とは何であろうか。もしそれを通常の二輪自動車のようなものと考えたら——二輪自動車は当初「脚踏摩托车」「脚踏摩托卡」などの名称で呼ばれた(注18)——、「卡车」が例外的に貨物自動車でも旅客自動車でもないものを言うのに使われていることになる。しかし、筆者は「脚踏卡车」は通常の二輪自動車のような操縦部を有する小型の三輪貨物自動車ではないかと想像する。いずれにせよ、「脚踏卡车」の語は上記の書に使用を確認できただけの稀な事例である。

4 第3期の「卡车」の成立根拠

現在広く使われている第3期の「卡车」の語はどのようにして成立したのか。その真相は

残念ながら明らかではない。

考え得る可能性の1つは、第3期の「卡车」は第1期か第2期の「卡车」を引き継ぐ語だということである。先に見た通り、馬車の文脈における「卡车」、すなわち、馬の引く *cart* には貨物用のものもあれば旅客用のものもあった。また、鉄道の「卡车」は機関車によって牽引される貨車や客車であった。いずれも自動車の「卡车」がエンジンの動力で貨物や旅客を牽引して運ぶイメージに重なる。したがって、意味の点だけで言えば、自動車の「卡车」は馬車の「卡车」の継承と考えても、鉄道の「卡车」の継承と考えても自然である——もし前者だとすれば「卡」は *cart* の音訳であり、後者だとすれば *freight car*、*passenger car* の *car* の音訳であることになる——。²¹ もっとも、時間的な近接性を考慮に入れば、馬車の「卡车」より鉄道の「卡车」の継承と考えるのがより自然ではあろう。鉄道と自動車とでは「卡」を語構成要素とする「貨卡」——鉄道では貨車、自動車では貨物自動車——のような語があるという共通性もある。

考え得る第2の可能性は、第3期の「卡车」は「摩托卡车」、すなわち、“*motorcar* 車”から「摩托」を省いて短縮した結果だということである。しかし、表面的には理解しやすいこの考えには、そのように言っただけでは、「卡车」の語がもっぱら特定の種類の自動車を表すのに使われるという事実を説明できないという重要な不足がある。すなわち、第2期以来自動車の名称として「汽車」や「摩托卡」「摩托卡车」「摩托車」などが併用されていたわけであるが、それに遅れて発生した「卡车」の語が特定の種類の自動車だけを表す語になる理由がまったく分からないということである。

ほかに考え得る第3の可能性は、第3期の「卡车」は、それ以前の「卡车」や「摩托卡车」とは関わりなく、牽引動力部を表す「卡」、*motorcar* の意味での *car* に、被牽引部としての無動力の貨車や客車を表す「車」を組み合わせることで新たに構成されたということである。しかし、第3期開始期以前にあっては自動車の文脈で「卡」を独立の語や複合語の前要素として使ったほかの例が見当たらないので、なぜそのような造語が可能であったのかということが問題となる。²²

筆者が調査を通じて得た限りの情報に基づいて目下の問題に確実な判断を下すことはできない。未解決の課題とせざるを得ない。

5 余論——重言的な「音訳+名詞」

「卡车」は“*car* 車”だと言うだけでは、それが“車車”という重言であることになってし

²¹ ただし、貨物用の馬車や鉄道の貨車は動力を持たず、貨物自動車は動力を持つという違いはある。

²² 20世紀中葉以後には「三輪卡」「吉普卡」（ジープ）のように「卡」を後要素とする複合語は多く見られるようになる。

まうという問題を2節で述べた。

そのことに関連して、大阪大学文学部研究生の趙文烜さん(日本語学)から、現に“車車”に類する「加農砲」と「蘇伯湯」という語があるという指摘を受けた。それぞれ、大砲とスープを表す複合語である——中国語の「湯」はスープを表す——。

「加農砲」は日本でオランダ語の翻訳によって作られた語のようである。小関高彦訳『山砲略説』(1855(安政2)年)には「加農六門、忽微砲二門を以て一隊と定め」というくだりがあり、杉田成卿訳『砲術訓蒙』(1858(安政5)年)では大砲の種類に「加農」「白砲」「忽微砲」があると説明されている。「カノン」と「ホウキツツル」はそれぞれオランダ語 *kanon*、*houwitsjer* の音訳であり、「白」は同 *mortier* の意識である。²³ 両書の「加農」には「砲」が加えられていないが、『海外新聞別集』(1862(文久2)年)に掲載された「ウィルレムスビュルグの戦争」という翻訳記事では「加農砲を放つ」という表現が使われている。『山砲略説』『砲術訓蒙』ともに、「加農」を大砲全般ではなく、特定の条件を満たす種類の大砲の名称として使っているので、「加農砲」は重言的な表現ではないことになる。

「蘇伯湯」——「伯」の部分は「波」「薄」「布」とも書かれる——は中国の東北、西北地方で使われる語のようである。許・宮田主編(1991)は「由马铃薯、洋白菜、西红柿等制成的一种俄式菜汤。借自俄语。」(ジャガイモ、キャベツ、トマトなどで作った一種のロシア式野菜スープ。ロシア語からの借用。)と説明し、李主編(2002)は「蘇伯」について「借自俄语 *cyn[sup]* 湯」(ロシア語 *cyn* (湯) の借用)と説明している。「蘇伯」は、原語の語義はスープに過ぎないとしても、「蘇伯湯」の語においては最初から特定の種類のスープ——“ロシア語で *cyn[sup]* と呼ばれるスープ”——を示す意図で使われたものであろうから、「蘇伯湯」はやはり単純な重言ではないと言える。

したがって、「加農砲」も「蘇伯湯」も「啤酒」や「卡片」と同じく複合語後要素の表す事物を前要素が限定している語であることになる。

6 おわりに

以上、「卡车」という語に関する筆者年来の疑問について用例の調査に基づいて考察を加えた。

「卡车」は馬車、鉄道、自動車の3つの文脈において使われた。馬車の「卡车」は「カ」が *cart* であり、鉄道の「卡车」は「カ」が *freight car* や *passenger car* の *car* であるが、ともに動力源によって牽引される貨車や客車を表した。自動車の「卡车」は動力を有する貨物自動車と旅客自動車の名称として使い始められ、最終的にはもっぱら貨物自動車を表す名称として定着した。

しかし、自動車を表す「卡车」の由来の特定には至らなかった。第2期の「卡车」を引き

²³ *houwitsjer*、「忽微砲」は「榴弾砲」と意識されることもあった。

継いでいるようでもあり、しかし、そのように言い切れるだけの証拠もない。確認することのできた「卡车」および関連語の用例に限られており、事実の精密な解明にも限界がある。今後さらなる証拠の発見によって「卡车」の語史に関する理解が深められることを期待したい。

文献

- 北京師範学院中文系漢語教研組編著(1959)『五四以来漢語書面語言的變遷和發展』(商务印书館)
- 岑麒祥(1990)『汉语外来语词典』(商务印书館)
- 高名凱・刘正琰(1958)『現代漢語外来詞研究』(文字改革出版社)
- 國語日報出版部編譯組主編(1981)『國語日報外來語詞典』(國語日報社)
- 黄河清編著(2010)『近现代辞源』(上海辞书出版社)
- 黄河清編著(2020)『近现代汉语辞源』(上海辞书出版社)
- 李榮主編(2002)『現代漢語方言大詞典』(江蘇教育出版社)
- 刘正琰・高名凱・麦永乾・史有为編(1984)『汉语外来词词典』(上海辞书出版社)
- 羅常培(1950)『語言與文化』(國立北京大學出版)
- 钱乃荣(2013)「“车”水马龙」钱乃荣・丁迪蒙・朱贞淼『妙趣横生上海话』(上海大学出版社)
- 史有为(2013)『汉语外来词(增订本)』(商务印书館)
- 史有为主編(2019)『新华外来词词典』(商务印书館)
- 宋子然主編(2014)『100年汉语新词新语大辞典(1912年—2011年)』上卷(上海辞书出版社)
- 王力(1990)『王力文集 第11卷 汉语词汇史』(山东教育出版社)
- 许宝华・宮田一郎主編(1999)『汉语方言大词典』(中华书局)
- 杨锡彭(2007)『汉语外来词研究』(上海人民出版社)
- 中国公路交通史编审委员会(1990)『中国公路运输史』第1册(人民交通出版社)
- Berkebile, Donald H. (1978) *Carriage Terminology: An Historical Dictionary*. Washington: Smithsonian Institution Press.
- Stratton, Ezra M. (1878) *The World on Wheels; Or Carriages, With Their Historical Associations from the Earliest to the Present Time*. New York: Published by the Author.

『或問』投稿規定

- 投稿資格は、近代東西言語文化接触研究会会員（入会は内田、又は沈まで）。
- 投稿論文は、原則として未公開の完全原稿とし、電子テキストとプリントアウトの両方を提出する。原稿は返却しない。
- 執筆者による校正は、二校までとする。
- 投稿論文は、本誌掲載後、他の論文集等の出版物への投稿を妨げない。
- 原稿作成に当たって、『或問』「執筆要領」を厳守する。
- 原稿料は支払わないが、雑誌を格安価格で提供する。

『或問』執筆要領

1. 使用言語は、日本語、英語、中国語とする。
2. 字数は、16,000字（400字詰め原稿用紙40枚）までとする。
3. 簡単な要旨（原稿と異なる言語による）を付する。
4. 投稿は、所定のフォーマットを用い、表などは極力避ける。フォーマットは、沈国威までご連絡ください。
5. テンプレートを使用しない場合、テキストファイルの形で提出する。
6. 論文中に中国語などを混在させる場合、Windowsは、微軟Pinyin2.0（簡体字）、微軟新注音（繁体字）を用いること。
7. 注は、脚注を用い、文章の行中に（注1）のように番号を付ける。
8. 参考文献は、下記の体裁で脚注に付けるか、或いは文末に一括して明示すること。

（単行本）

或問太郎、『西学東漸の研究』、大阪：しずみ書房、2000年10-20頁

Bennett, Adrian A. *John Fryer: The Introduction of Western Science and Technology into Nineteenth-century China*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press 1967.

（論文）

或問花子、「東学西漸の研究」、『或問』第1号、2000年2-15頁

Fryer, John. "Scientific Terminology: Present Discrepancies and Means of Securing Uniformity." *Records of the General Conference of the Protestant Missionaries of China Held at Shanghai, May 7-20, 1890*, pp. 531-549.

9. 本文や注の中で、文献に言及するときには、或問太郎（2000:2-15）のように指示する。同一著者による同年の論著は、2000a、2000bのように区別する。

内田慶市 (u_keiichi@mac.com)

沈 国威 (shkky@kansai-u.ac.jp)